

がんばる担い手

熊本県JA本渡五和

営農組織連絡協議会



複数の営農組織が独自のアプローチで地域を活性化

JA本渡五和は、天草下島の中央東部と北部、天草上島の西部を管内に持ち、暖流の影響で冬は暖かく、夏は比較的涼しい海洋性気候が特徴である。その気候を活かし、早期米やかんきつ類、畜産業が盛んである。今回は、TACが設立した営農組織連絡協議会に所属する3つの法人の取り組みを紹介する。

多くの客が訪れる国際色豊かな民泊事業

農事組合法人 宮地岳営農組合

宮地岳営農組合は、天草下島の中心に位置する農事組合法人で平成12年4月に設立された。当初から、農家の高齢化や兼業化が進むうえに町の大部分が中山間地のため、今後の耕作面積の拡大も見込めなかった。そのため、主な設立目的は、大豆や飼料用作物といった水稲転作作物の作業受託であったが、営農組織の活動が多様化した現在では宮地岳町全体の農業と農地を守ることを主眼に活動している。法人の多くは水稲を主体とし、裏作で大豆、そば、なたね、飼料用米、レタスを栽培している。裏作作物は全量JAに、そばは地元の蕎麦屋に出荷するなど、地域の活性化を通じて効果的な農業生産と所得の向上に寄与している。

また、営農組織では、行政と連携して都市部と中山間部との交流を行う民泊事業に取り組んでいる。事業を始めて約10年が経過するが、平成29年度は過去最多となる総宿泊数550泊、380名の観光客が訪れた。地元の大学生だけでなく、アメリカ、台湾、韓国からも観光客が訪れ、国際色豊かな取り組みとなっている。

TACが若手と営農組織をマッチング

農事組合法人 本渡山口の里

農事組合法人 本渡山口の里は、旧本渡市街地近くの平坦地から町山口川の上流に位置する中山間地の集落にあり、管内の多くが水稲主体の兼業農家である。ここでも、担い手の高齢化と後継者不足に

より離農する担い手が増え、農地の維持が困難になっていた。

そんな折、TACの山下さんが、隣町に住む若者、前田さんが農業に興味を持っていると聞きつけた。山下さんを通じて本渡山口の里を紹介された前田さんは、新規就農者として繁殖農業を営むかたわら、現在はオペレーターとして法人が受託した農作業に励んでいる。このように、TACが新規就農者と営農組織を結びつけ、地域農業を後押ししている。

「Z-GIS」で各圃場の作業を一元管理

農事組合法人 楠浦営農組合

楠浦営農組合は、平成8年に耕作放棄地をどうにかしようと圃場整備推進委員会を立ち上げた。同組合は、

主に水稲と飼料用米作物を生産し、裏作では大麦と高菜を植え付けている。構成員の高齢化が進み、一部作業をオペレーターに委託しているが、圃場整備の3つの工区(上ノ原・小島新田・亀島)を1枚の地図で管理しており、作業日報の管理が煩雑になっていた。

そこで、エクセルデータで一元管理が可能な「Z-GIS」をTACが提案し、導入することになった。圃場ごとに台帳面積・水張面積・早期米と晩作米の区別とその品種、裏作の作物をデータ化して管理している。現在は地図データの整備を進めている段階であるが、今後は管理者の負担軽減とオペレーターへの円滑な作業委託につながると期待を寄せている。

【全農 耕種総合対策部

TAC推進課】



▲修学旅行の受け入れも行っている
(取材日は広島から80名の生徒が訪れた)



▲左からTAC山下さん、前田さん、
本渡山口の里・園田やすえさん、園田康弘さん



▲中央会担い手・法人サポートセンターと連携し
地図ポリゴンデータの整備を行っている